

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	静岡県	事業実施主体	静岡県・浜松市	地域再生計画名	FSC認証材流通拡大推進計画
計画期間	令和2年度～令和6年度	評価責任者	浜松市産業部農林水産担当部長		

	指標		基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価		
			基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績		指標総数	達成数			
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	素材生産量	118千㎡/年	H30	166千㎡/年	R4	122千㎡/年	181千㎡/年	R6	102千㎡/年	△	5	0	令和4年度9月台風15号や令和5年度6月豪雨等による林道・作業道の被災により素材生産量に大きく影響した。目標達成には至らなかったものの持続可能な林業経営に向けた基盤整備は着実に進んでいることから今後更なる生産を見込む。
	指標2	素材生産量（うち、FSC認証材生産量）	67千㎡/年	H30	127千㎡/年	R4	58千㎡/年	143千㎡/年	R6	57千㎡/年	△	5	0	令和4年度9月台風15号や令和5年度6月豪雨等による林道・作業道の被災により素材生産量に大きく影響した。最終目標値を下回る結果となったが、市内FSC認証材面積は拡大した。今後は非住宅建築物におけるFSC認証材販路拡大により素材生産量拡大を推進する。
	指標3	地域材利用住宅棟数	181棟/年	H30	250棟/年	R4	154棟/年	250棟/年	R6	123棟/年	△			物価高騰や住宅ローン金利の上昇による住宅着工数の減少や景気低迷の影響等により目標値に届かない結果となった。地域材の広報や住宅補助制度の活用により一定の需要は維持された。地域材の特性をより効果的にアピールし新たな需要層の開拓に努める。
	指標4	地域材利用住宅棟数（うち、FSC認証材利用住宅棟数）	115棟/年	H30	200棟/年	R4	154棟/年	200棟/年	R6	123棟/年	△			物価高騰や住宅ローン金利の上昇による住宅着工数の減少や景気低迷の影響等により目標値に届かない結果となった。令和3年度から市住宅助成事業の対象要件を地元産FSC認証材に限定したことから、基準年度と比較すると増加した。企業、個人ともに環境配慮型住宅への関心は高まっており、今後は制度改正と併せ更なる啓発活動により新たな需要層の開拓に努める。
	指標5	森林組合作業員数	175人	H29	200人	R4	161人	200人	R6	131人	△			森林組合作業員数は目標を下回った。林業従事者の高齢化や他産業への流出等が挙げられるが、市が実施する新規就業者支援制度の活用や、林業の魅力発信により、一定数の新規就業者を確保できた。（最終目標値の実績はR8.4月頃に確定予定）
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1													
	指標2													
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度（R4）	最終実績									
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）		7.552km	5.352km	7.427km	市道細江11号線外1線、市道飯田鴨江線は令和6年度に完成。計画していた全ての路線はR6年度で完了。								
	林道整備事業（整備延長）		3.925km	1.963km	3.329km	林道池の平矢岳線・林道地八吉沢線・大沢光明線については、用地交渉に不測の日時を要し、計画の遅れがあったがR6年度に開通。林道光明山佐久線については令和5年度に計画通り開通した。								
その他の事業	森林認証取得		FSC森林認証の更なる認証面積拡大やCOC認証取得の増加を図る。			平成22年3月取得（18,300ha）。その後毎年増加を重ね、現在49,859haに拡大し市町村別認証取得面積は全国1位（令和6年10月末現在）。東京2020大会関連施設（有明体操競技場、選手村ビレッジプラザ等）への天竜材（FSC認証材）の納材や「浜松地域FSC・CLT利活用推進協議会（平成28年6月設立：参加109社）」の活動等により、FSC森林認証の認知度が向上した。								
	天竜材の家百年住居の事業		天竜材を使用した木造住宅費用への助成により天竜材の利用促進を図る。			R1/146棟（FSC:94棟）、R2/131棟（FSC:79棟）、R3/160棟（FSC:160棟）、R4/154棟（FSC:154棟）、R5/142棟（FSC:142棟）、R6/123棟（FSC:123棟）【R3年度から要綱改正により補助対象を天竜材かつFSC材に限定】H18年度から始まった本制度は、FSC認証材使用が条件となった以降、13年間で約1万㎡が市内で使用された実績があり、FSC森林認証及びFSC認証材が広く市民に浸透したと見られる。本事業は、本市の地産地消に関する最重要政策であり、今後もFSC認証材の更なる流通拡大を図る。								
	天竜材めくもり空間創出事業		天竜材を使用した非住宅建築物への助成により天竜材の利用促進を図る。			R4/19件（105㎡）、R5/11件（212㎡）、R6/（166㎡）非住宅建築物の木造・木質化を推進するための制度で、現在、SDGsや脱炭素化の実現に理解の深い事業者の木材使用のきっかけを創出している。令和5年度からは制度拡充を行い、特に天竜材の普及効果の高い非住宅建築物での天竜材使用への上限を拡充（500万円→1,000万円）したことで、木材使用量が大幅に増加した。								
	低コスト林業の推進		作業道の開設・補修等への支援により、基盤整備の充実を図る。			R4/作業道開設:25路線・11,908m、作業路開設:5路線・2,715m、作業道補修:39路線・16,989m、架線設置・撤去:8箇所・8,369m R5/作業道開設:18路線・8,722m、作業路開設:10路線・3,663m、作業道補修:39路線・22,509m、架線設置・撤去:33箇所・6,041m R6/作業道開設:21路線・11,084m、作業路開設:7路線・2,360m、作業道補修:40路線・18,909m、架線設置・撤去:29箇所・6,030m 作業道開設等の費用の一部を助成することで、効率的な木材生産を推進するための基盤整備の充実を図る。								
計画外で独自に実施した事業														
④評価方法	地域再生計画の目標は、浜松市が静岡県等から必要な資料を入手し実績を把握。浜松市土木部局、農林部局および静岡県農林部局において地域再生計画事業評価委員会を立ち上げ、達成状況の評価、改善すべき事項の検討等を行う。なお、素材生産量及び森林組合作業員数は市内実績であり、天竜材利用住宅棟数およびFSC認証材利用住宅棟数については、浜松市が実施している天竜材の家百年住居の事業の利用棟数を評価指標とする。													
⑤事後評価の公表方法	浜松市ホームページにて公開。													
⑥計画全体の総合評価	各指標とも新型コロナウイルス感染症拡大による景気低迷や本地域で発生した豪雨災害（令和4年度9月台風15号、令和5年度6月豪雨等）による被災等により、目標を達成できなかった。また、林道整備においては、用地交渉に不測の日時を要したことなどから、計画の遅れが出ていることも目標未達成への影響があった。ただ、この間、本事業（道整備）や関係事業の実施等により、市内の住宅や非住宅に多くの天竜材（FSC認証材）が使用されたとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連施設である有明体操競技場や選手村ビレッジプラザなども天竜材（FSC認証材）を納材するなど、天竜材（FSC認証材）を市内のみならず全国にPRすることができ、FSC認証材の利用拡大を通じた持続可能な社会（クリーンウッド社会）の実現へのきっかけづくりができたと思料。今後、この取組を更に進めるとともに、令和元年度から開始された森林環境譲与税の効果的な活用等により、更なる森林整備や天竜材（FSC認証材）の利活用の推進を図ることで地域再生を進める。													
⑦今後の方針等	天竜材（FSC認証材）の生産・流通に不可欠な市道・林道の整備を継続し、引き続き、天竜材（FSC認証材）の流通・販路拡大を通じた持続可能な社会の実現を目指す。なお、全国的な傾向である住宅着工数の減少を考慮し、これまで市内住宅での使用が中心であった天竜材（FSC認証材）の販路について、非住宅建築物での使用を強化するとともに、FSCを活用した環境ブランドの確立による他地域材との差別化を図ることで、市外・県外への販路拡大といった地産外販を積極的に進める。また、近年、気候変動にともなう豪雨の増加により林道等の災害が多発しているが、森林管理の体制強化等による災害に強い森林・林道づくりに取り組むことで、次期計画を適切に進められるように努める。													